

学校紹介

School

米子工業高校創立 100 周年記念式典と パブリックアクセスチャンネル大賞

鳥取県立米子工業高等学校長 松川 明義

1. 学校紹介

本校がある米子市は鳥取県の西部に位置し、日本海に面した雄峰大山を望む人口約 14 万人（令和 6 年現在）の都市である。

明治時代、山陰で初めて鉄道が開通し、戦前は大陸との旅客船などの中継地として、戦後は山陰から山陽に向かう鉄道の中心地として現在にかけて栄えてきた。本校と国道を挟んで位置する JR 西日本後藤総合車両所は今も JR 西日本管内を走る全ての気動車のエンジン、変速機の検査を担う鉄道の要である。

米子市では近年、米子城跡の整備や米子駅の南北自由通路など様々な事業を行っている。

昨年開通した南北自由通路の名称、「がいなロード」は本校の生徒の案が採用された。これは、米子市の公募に対し、建設科 1 年生の生徒たちが米子市の歴史を学び、考えて提出した案の中から採用、表彰されたものである。

本校は米子市の中心部に位置し、大正 12 年（1923 年）4 月、機械電気科、応用化学科を設置し一期生が入学した。



写真 1 正門から見た米子工業高等学校

開校当時は「鳥取県立工業学校」という名称で、県内唯一の工業学校であった。その後、昭和 9 年（1934 年）に「県立米子工業学校」、戦後の学制改革により昭和 23 年（1948 年）には「鳥取県立米子工業高等学校」へと校名変更している。

また、幾度かの学科改編を経て、平成 26 年（2014 年）に機械科、電気科、情報電子科、環境エネルギー科（化学を対象とする県内唯一の科）、建設科（建築コース、土木コース）の 5 学科が設置され現在に至っている。

平成 6 年（2024 年）3 月には 169 名の卒業生を送り出し、卒業生の総数は 19,000 余名となった。就職者の約半数は地元に残り、特に県西部の企業では多くの卒業生が活躍している。

2. 創立 100 周年記念式典

令和 4 年（2022 年）に本校は創立 100 周年を迎え、11 月 2 日（水）に米子コンベンションセンターで記念式典を開催した。

式典には全校生徒が参加する中、鳥取県副知事・米子市長などをお迎えし、全校生徒で式典



写真 2 式典での校長の挨拶

を盛り上げた。

(1) 各科生徒発表

100周年記念行事では生徒が司会を担当し、各科の代表生徒が日頃の学習成果を映像や実演を交えて発表した。



写真3 生徒発表の司会進行をする生徒
各科の発表内容は次のとおりである。

<機械科>

課題研究の取組や地域貢献活動の紹介

<電気科>

競技用ロボットの製作

<情報電子科>

防災・減災に関するものづくり

～可搬型電源装置の製作～

<環境エネルギー科>

廃プラスチックによる流出油処理剤の開発

<建設科>

課題研究の取組

～創立100周年に向けて～



写真4 建設科の発表

(2) 合唱・吹奏楽部演奏

生徒発表の後、吹奏楽部がポップスの曲をソロなどを交えて演奏し会場を盛り上げた。

その後、元玉川大学の千葉佑先生が編曲された校歌を、音楽を選択している1年生全員が吹奏楽部の伴奏で合唱披露した。



写真5 1年生音楽選択生徒と吹奏楽部による
校歌合唱

3. 建設科ものづくり班の課題研究

(1) 取組の経緯

建設科の課題研究では、ものづくりを中心に測量や製図など生徒が希望する活動内容で取り組んできた。

特にものづくり班では、平成26年度(2014年度)から毎年地域に出かけ、多くの場所で駐車場の白線引きや史跡の説明看板製作など、地域からの要望に応じた地域貢献の一環となる取組を行っている。

当初は様々な地域の要望や要請があったが、危険な作業や資格が必要な作業は受けることができない。取組内容として、作業に公共性があり、完成した後もその成果が生徒たちにとってわかりやすいものである必要があった。

様々な地域貢献の中でも駐車場の白線引きは、実習場所を封鎖することで安全に作業でき、完成後も地域の方々が、車を規則正しく駐車している様子を見ることで達成感を味わうことができるため、結果として主な実習となっている。そして、一つ一つの取組の評価が次の依頼につながり、継続して実習場所を提供してい

いただいた結果、これまで多くの場所で施工実績を残すことができた。

白線引きの取組の問題点は、天候に左右されることである。屋外での作業のため、雨天時には実習室で木材を用い公共施設の看板枠なども製作している。

昨年度は米子市指定文化財になった阿陀萱神社、大篠津掩体壕の2か所の看板枠製作を行い、実際に施工も行った。

この看板枠づくりは平成19年(2007年)に始まり、米子市埋蔵文化財センターと淀江歴史民族資料館に設置した木造の枠は、15年以上たっても腐らずに役目を果たしている。

表1 ものづくり班の施工場所一覧

分類	施行場所
保育園	市立東, あげほの, ゆりかご
小学校	啓成, 伯仙, 福米東, 福生西車尾, 明道, 成美, 崎津
中学校	加茂, 後藤ヶ丘, 箕蚊屋
特別支援学校	米子養護, 皆生養護
高等学校	米子東, 米子西, 米子南
一般	鳥取県立武道館, 米子市役所, 米子産業体育館, 米子市福祉保健総合センターふれあいの里, 米子市水鳥公園, 米子市埋蔵文化財センター, 米子市淀江歴史民族資料館, 気象庁米子測候所, 米子医療生協, 白鳳の里, 米子市児童文化センター, 大山青年の家, 阿陀萱神社, 大篠津掩体壕, 啓成公民館

※小学校, 中学校はいずれも米子市立, 特別支援学校, 高等学校は県立の学校

(2) 100周年記念への取組

100周年記念式典では、この年に取り組んだ本校テニスコートの壁打ち用壁面への文字入れ

作業について、動画を編集して各科生徒発表で発表した。



写真6 壁面への施工の様子

本校テニスコートはJR境線沿いに位置し、JRを利用される地域の方々や観光で訪れる方々へのPRにも絶好の場所となっている。

テニスコートの壁面の線路側には「明日に向かって翔け米工」の文字が書かれている。

しかし、施行から10年以上が経ち、文字が劣化し、剥がれてきていた。

そのため、その文字を生徒たちが塗り直し、「鳥取県立米子工業高等学校」の文字も追加した。

ここは6種類の鬼太郎列車が走る観光路線であると共に、米子と米子鬼太郎空港、隠岐航路へのアクセス路線にもなっており、多くの方々の目に留まる最適な場所でもある。このため、学校名を追加することで、来県者にも学校名を知っていただく機会となっている。



写真7 JR境線から見たテニスコート壁面の文字

毎年ものづくり班に集まった生徒の中からリーダーを決め、各生徒がビデオ係、カメラ係、書記などの役割を分担している。

動画制作にはビデオ係とカメラ係が撮った資料を用い、生徒たちが編集してナレーションや音楽などを入れている。年度末の課題研究発表会では、このビデオを用いた研究発表を行っている。

100周年記念式典でもこのビデオを活用したが、式典の動画には創立当時の校舎の写真など学校の歴史も紹介し、生徒がナレーションをするだけではなく、英語のナレーションも入れて構成した。

その動画は5分程度にまとめてあり、地元ケーブルテレビへの提供やYouTubeへアップし、地域の皆さんや卒業生をはじめとする本校を支えてくださる皆さんにご覧いただけるようにしている。

YouTubeで「米子工業高校 2022 課題研究」と検索していただき、読者の皆様にもご覧いただければ幸いです。

(3) 中海テレビ放送 PAC 大賞受賞

中海テレビ放送局は昭和59年(1984年)米子市に設立され、平成元年(1989年)11月1日に開局した地元のケーブルテレビ局である。

そのチャンネルにパブリックアクセスチャンネル(PAC)という番組がある。

これは市民が撮影した映像を広く知ってもらう番組で、地元の文化団体や青年団体など33団体の番組運営協議会を中心に、公民館や学校の放送部、個人の投稿作品を放送している。

毎年このパブリックアクセスチャンネルで一年間放送された全作品の中から、番組運営協議会が各種賞を決定し、公表している。

この表彰制度において、令和4年度に放送された作品の中から、米子工業高校建設科ものづくり班の取組を紹介したビデオ作品が最高位の第28回PAC大賞を受賞し、令和5年3月に

表彰式が行われた。

制作した生徒たちは皆卒業し、現在では地元で活躍している。米子天満屋で行われた表彰式には、卒業生の代表が出席し記念の盾を受け取り、校長に報告、手渡した。



写真8 受賞報告に母校を訪れた卒業生

(4) 取組による生徒の成長

この取組が様々な方々の日頃の協力によって実践できていることに感謝している。特に、100周年記念式典で動画を披露でき、また地元ケーブルテレビから表彰されたことは、生徒たちの日頃の活動を地域からも評価していただいたことであり重ねて感謝申し上げたい。

現在も多くの地域の方々からものづくりの依頼を受け、生徒たちの実践の場を提供していただいている。

生徒たちは依頼された場所で励ましの言葉をいただくと、達成感を味わい、自己有用感を高め、進路決定にも良い影響を受けている。

4. まとめ

ものづくりは、材料を加工し、組み合わせ、エネルギーやプログラムを与える工程を通し、さらに人が関わることで命を宿したシステムを創りあげる活動である。工業高校で学ぶ生徒たちは、理論を体験で活かし、言葉にならない感動に遭遇する中で大きく成長していく。工業高校で学ぶ生徒のさらなる成長を期待している。